

■原田豊吉 地質学者。独自の地体構造論を展開，ナウマンと論争し，お雇外国人からの自立示して，早世した。

はらだとよきち

桜田門外変・1860 = 岡山藩士のち陸軍中将となる原田市道の長子として江戸小石川に生まれる。

明治維新・・1868 = 8歳：

戊辰戦争終・1869 = 9歳：

明治6年政変 1873 = 13歳：

佐賀の乱・・1874 = 14歳：\_ドイツに留学し，

中等教育を卒え，

大久保暗殺・1878 = 18歳：

\_フライブルグ鉱山学校・ハイデルベルグ大学・ミュンヘン大学に学び，  
\_オーストリア地質調査所に勤め，「コメリコおよび西カルミア地方の地質についての報告」を著わす。

明治14年政変 1881 = 21歳：

\_この間アルプスを跋涉し，日本山岳界のアルプス登攀の先駆者として有名。

岩倉具視没・1883 = 23歳：

\_帰国，

国民之友始・1887 = 27歳：

初の対等条約 1888 = 28歳：\*「日本群島地質構造論」(独文)で独自の地体構造論を展開，"ナウマン・原田論争"の口火を切った。

帝国憲法発布 1889 = 29歳：\_地質調査所次長となり，東京帝国大学理学部教授を兼ね，広く本州四国を踏査し，地質図幅事業を推進。

帝国議会始・1890 = 30歳：\*主著「日本群島-地形学的・地質学的概観-」(独文)で，さらに豊富な資料を加えて日本の地質を総括し，はじめて日本の地質系統を樹立したが，

日清戦争始・1894 = 34歳：\_結核のため没した。